



すすめるけん

県がすすめている取り組みを紹介します！

ながさき森林環境税を活用した森林づくり

緑豊かな森林は、木材やキノコなどの林産物を生み出すだけでなく、きれいな水や空気を育み、災害から県民の生命や財産を守るなど生活に欠かせない重要な存在です。

この森林の持つさまざまな機能を健全な状態で次の世代に引き継いでいくため、「環境重視」と「県民参加」の視点に立って、ながさき森林環境税を活用した「ながさきの森林づくり」に取り組んでいます。

ながさき森林環境税

平成19年度から導入しており、その税収は長崎県の森林づくりのために役立てられています。

【個人：500円/年 法人：県民税均等割額の5%】

「環境重視」の森林づくり

未整備森林の整備

手入れが行われず荒廃した人工林を間伐によって健全な状態にするとともに、機械を搬入するための森林作業道の開設・整備を行っています。



間伐を実施した森林



森林作業道の開設

「県民参加」の森林づくり

ふるさとの森林づくり



森林での自然体験活動、地域の森林づくりを支援しています。

県産材の利用促進



多くの方が利用する施設や、学校などの木質化および木製品の整備を支援し、県産材の利用促進につなげています。

今年度はながさき森林環境税の見直しを行う年です。
今後、パブリックコメントを行いますので、県民の皆さんのご意見をお寄せください。



お話を伺ったのは
シイタケ生産者
ながおけんいち
永尾賢一さん
(対馬市)

48年間シイタケを栽培 国内最高賞を獲得

対馬で原木シイタケ栽培が始まったのは昭和40年代で、ピーク時の50年代には国内有数の生産量を誇り、現在でも県内一の産地です。私は昭和48年にUターンし、出身地である厳原町豆酸地区で原木シイタケ栽培を始めました。以来48年間、シイタケ栽培に情熱を注ぎ、「県乾しいたけ品評会」では過去最多の受賞を記録し、「令和3年度全農乾椎茸品評会」の花どんこ部門において、3度目となる農林水産大臣賞を受賞しました。



対馬の南西端にある豆酸地区



経営面積は300a、夫婦2人で年間300kgの乾シイタケを生産

思うようにならない 難しさが原木栽培の魅力

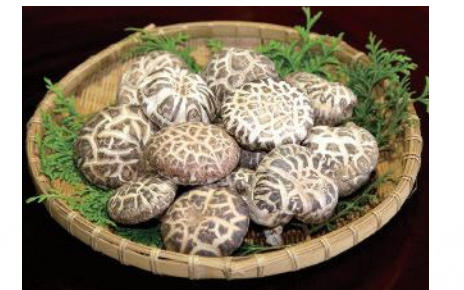
自然の中で育てる原木シイタケは、輸入シイタケや工場で菌床栽培されるシイタケに比べて高値ではありますが、香りと食感が良く、肉厚です。特に冬の間時間をかけて育てたシイタケは「森のアワビ」と称されるほどのおいしさです。栽培のコツは、微妙な温度や湿度の変化を見ながら散水すること。また、収穫時期の見極めも重要で、タイミングを少しでも間違えると傘が開き商品価値が落ちてしまいます。でもその難しさも、原木栽培の魅力の一つだと思います。



県内で頑張っている企業や人に
エール(応援)を送ります!

原木シイタケの おいしさを広めたい

これまで、厳原町椎茸生産部長を長年務めたほか、市が認定する「対馬・原木しいたけマイスター」として、他の生産者の技術・経営指導、後継者育成にも取り組んできました。これからも夫婦2人でできる限り栽培を続けながら、若手生産者が経営を維持していけるよう、対馬の原木シイタケのおいしさを全国に発信していきます。シイタケは健康維持にも効果のある食品ですので、県民の皆さんにもたくさん食べてほしいですね。



乾シイタケの最上級品「花どんこ」。菊の花のような白い模様が特徴



「森のアワビ」といわれる
最高級の原木シイタケを
対馬で栽培しています